

海中転落事故への備え



海中転落事故におけるリスク

- ライフジャケット(LJ)の未着用や、不適切着用
- 通信手段の消失
- 乗船船舶からのロスト
- 海中転落後の再乗船の困難性

LJの適正な着用

- LJは、いざというときの浮力確保
- 自動式以外の膨張型は、操作が必要
- 腰巻式は、更に海面上で姿勢の制御が必要
- 身体にフィットしていないと、
浮力確保が不十分
浮体が呼吸を制限する

LJの着用状態【不適切】

正面は特段問題ないように見える



横から見るとダボダボ



LJの着用状態【不適切】

浮体の密着状況



浮体がフィットしていない



浮体が体から離れている

LJの着用状態【適切】

正面はかわらない



横は、きっちりフィットしている



LJの着用状態【適切】

ベルトの端末

かなり長い



海面でのLJ状態【不適切】

浮体のみ浮き上がり、顔の周りを圧迫している。



海面でのLJ状態【不適切】

浮体のみ浮き上がり、顔の周りを圧迫している。



浮体のみ浮いており、
体は沈んだまま

海面でのLJ状態【適切】

浮体が体全体を持ち上げている。



海面でのLJ状態【適切】

浮体がフィットしており、体全体を持上げている。



浮体がフィットしており
体全体が浮いている

通信手段の確保

- 海中転落した場合、落水者は船上の無線等、使用不可
- 防水処置を行った携帯電話を、常時携行すれば、海面上からでも、緊急通報実施可能
(概ね沿岸から3～4海里:相模湾)

携帯電話の防水化

防水パックにいれて、常時携帯



海面上からの通報

LJを適正に着用し、防水化した携帯電話を常時携帯していると、海面上からも、通報が可能



海のもしもは、118番

乗船船舶からのロスト回避

- 目立つ色の着衣(黄色、オレンジ等)
- シグナルフロート
- 笛の吹鳴
- 光による信号
(フラッシュライト、シグナルミラー、火工品)

シグナルフロート

- ダイビングの目印に使う器材
- フロートに空気を入れて使用



シグナルミラー

- 太陽の反射で信号を送る
- 鏡裏面の覗き穴から、信号を送る目標物を捕らえて、反射光を送る

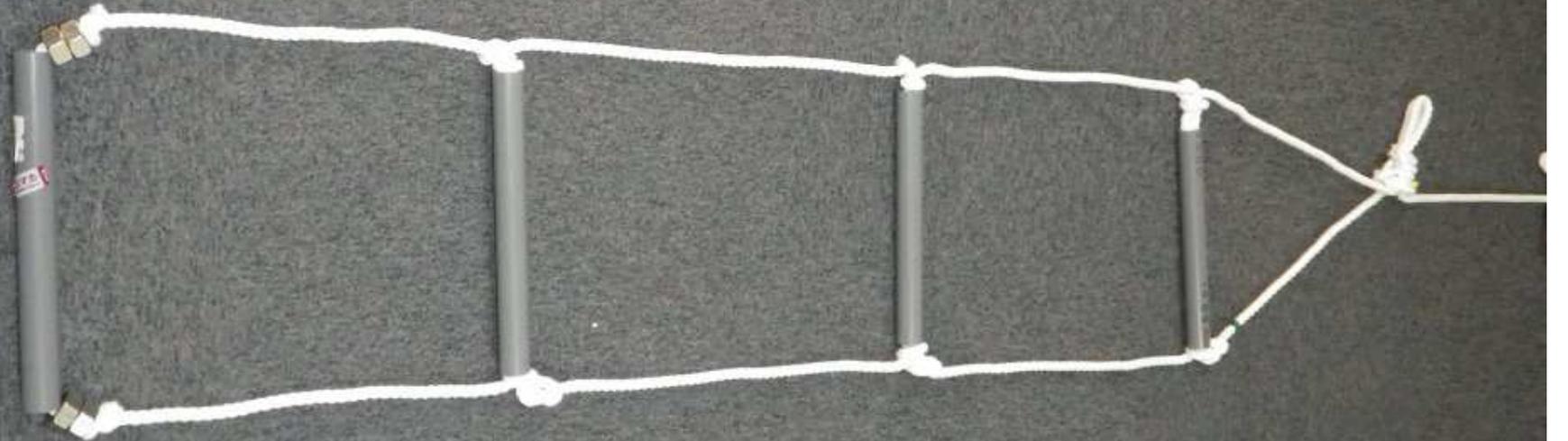


再乗船のための準備

- 海中転落後、海面上から単独で船に戻ることは非常に困難
- 身をのり出して作業する場合、海中転落する危険性は常にある
- いつ海中転落しても、自力で、再乗船することができるよう準備が必要

特製「塩ビはしご」を操業中、設置が必要

「塩ビはしご」



「塩ビはしご」材料

- ロープ(直径9mm:ポリエチレン製:8m)
- 塩ビパイプ(直径20mm:1m:4分轄)
- ナット(25mm:ステンレス製:4個)



ホームセンターで、約2千5百円程度

¥

「塩ビはしご」作成方法 1

1 端末から1m程度に
Wの半結びを作る

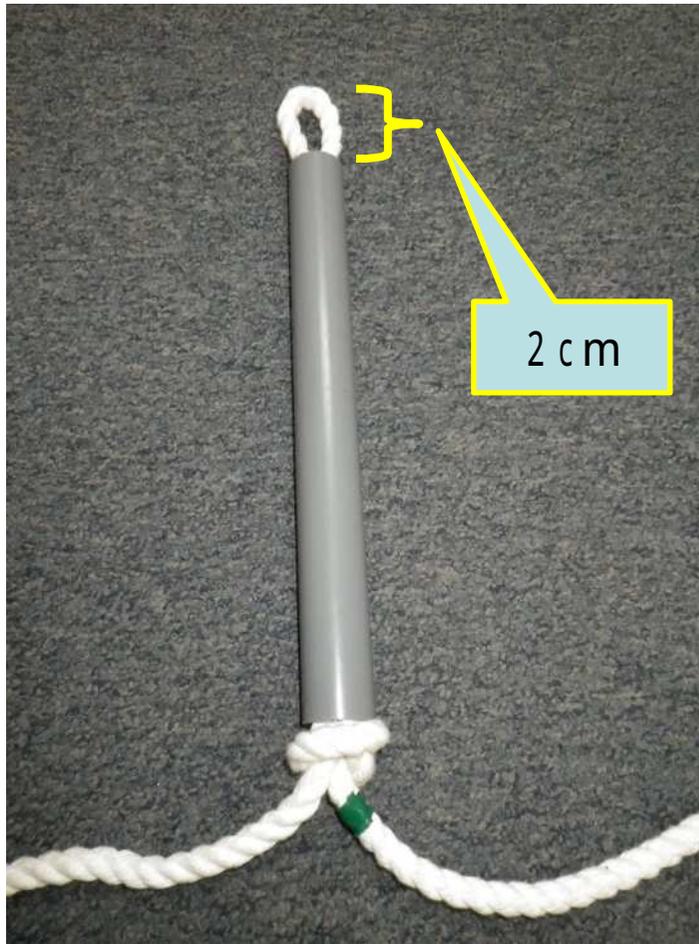


2 Wの房を、塩ビパイプ
の長さにする



「塩ビはしご」作成方法2

3 Wの房を塩ビパイプに通す(先端は2cm位)



4 塩ビパイプに半結びをかける



「塩ビはしご」作成方法3

5 根元に寄せて

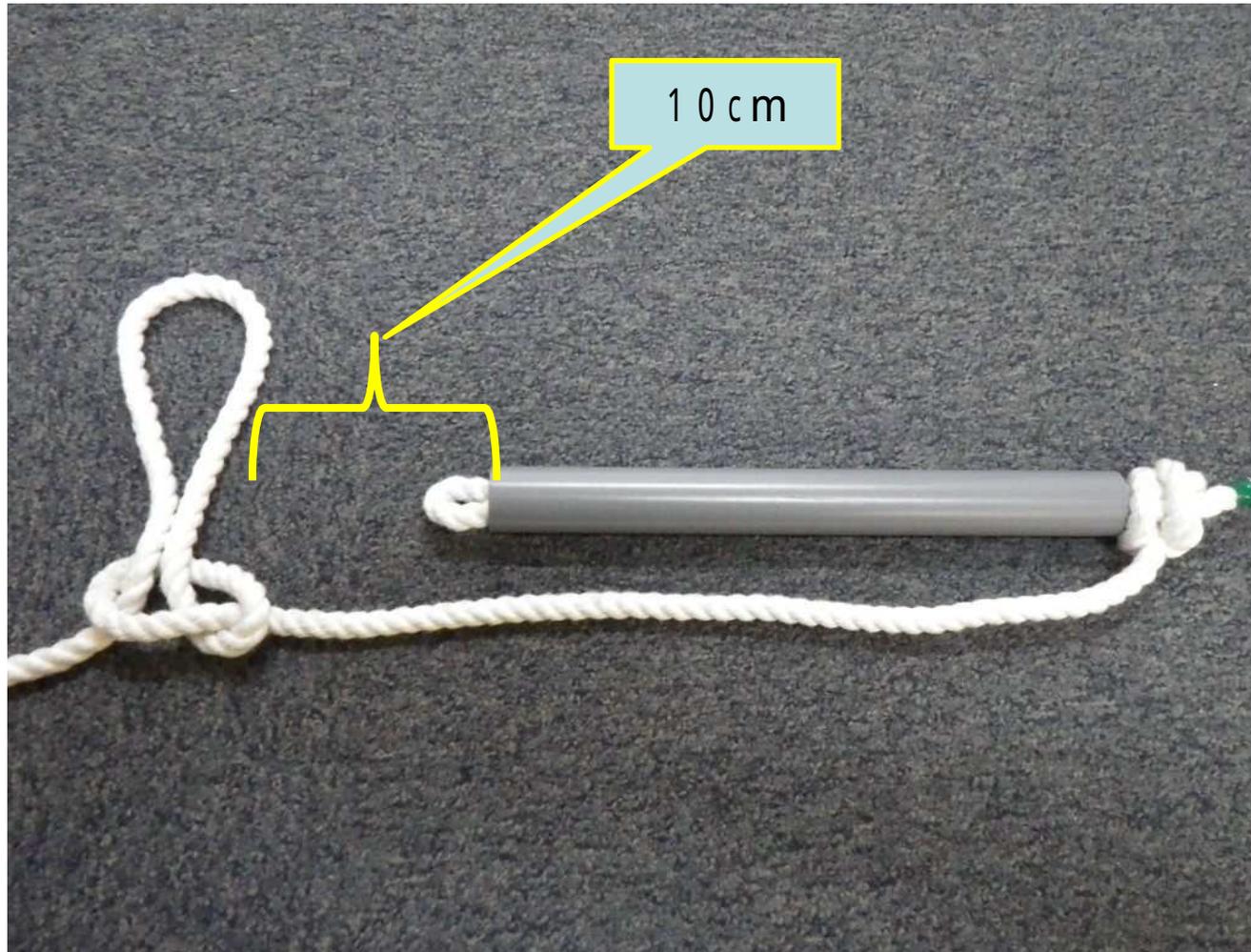


6 しっかり絞めこむ



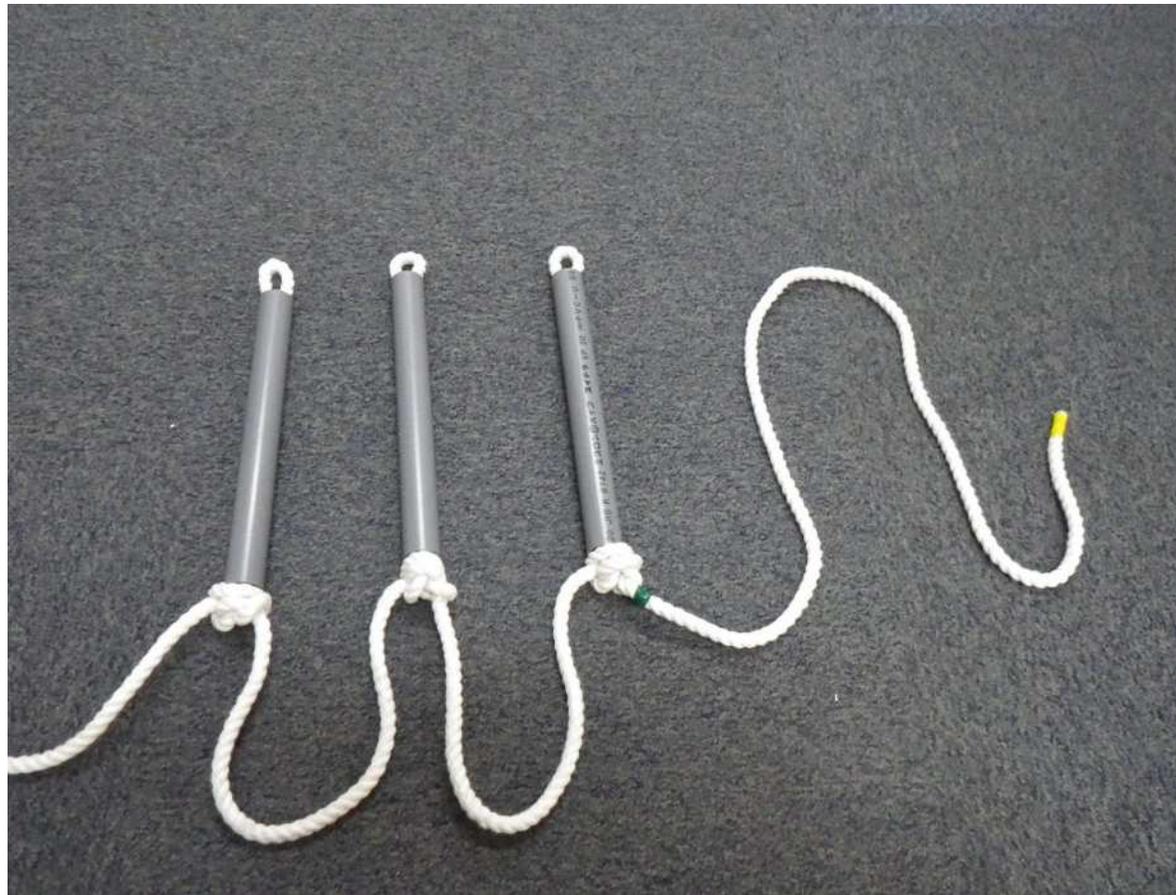
「塩ビはしご」作成方法 4

- 7 塩ビパイプの先から10cm程度間隔をあけ
2つ目の結びを作る



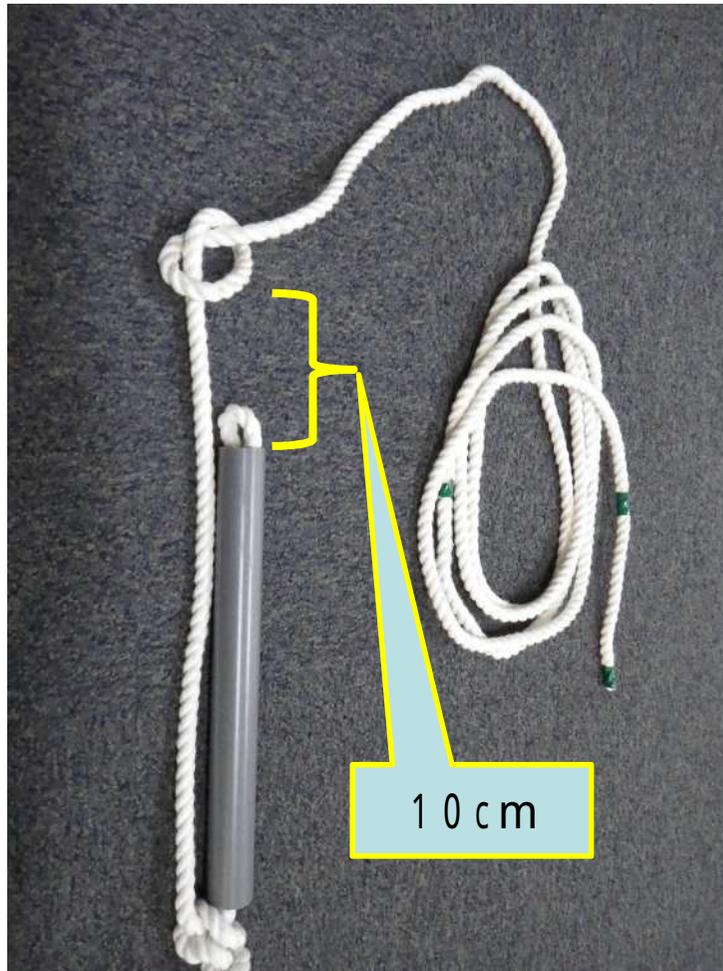
「塩ビはしご」作成方法5

- 7 同様に、3本分の塩ビパイプを通した結びを作成する



「塩ビはしご」作成方法7

8 半結びを作る

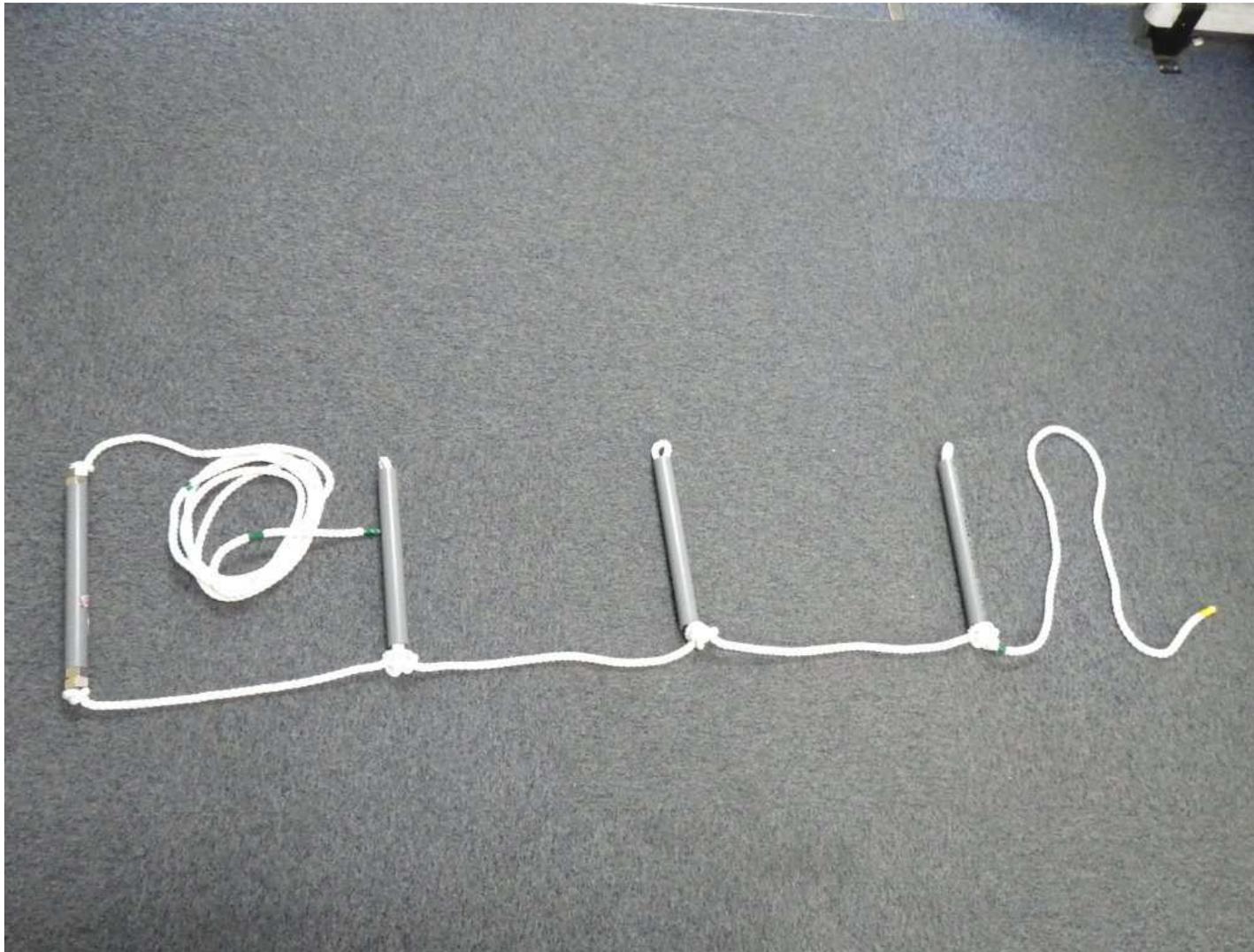


9 ナット2、塩ビパイプ、
ナット2を通し半結び



「塩ビはしご」作成方法 8

10 片側の結索の完成

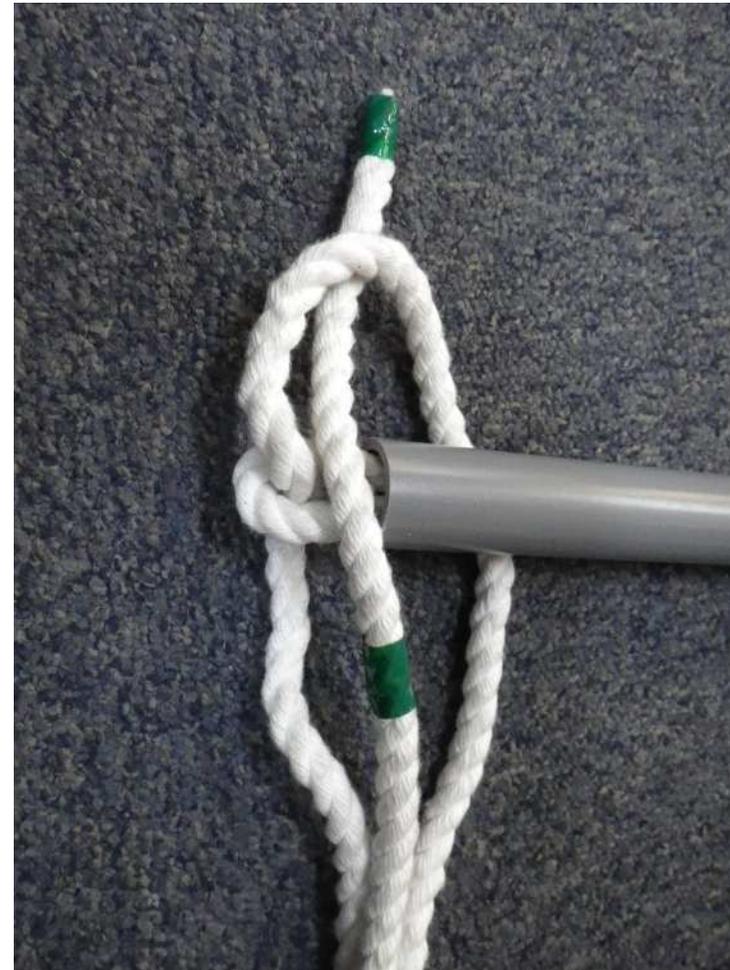


「塩ビはしご」作成方法9

11 Wの房に端末を
通す

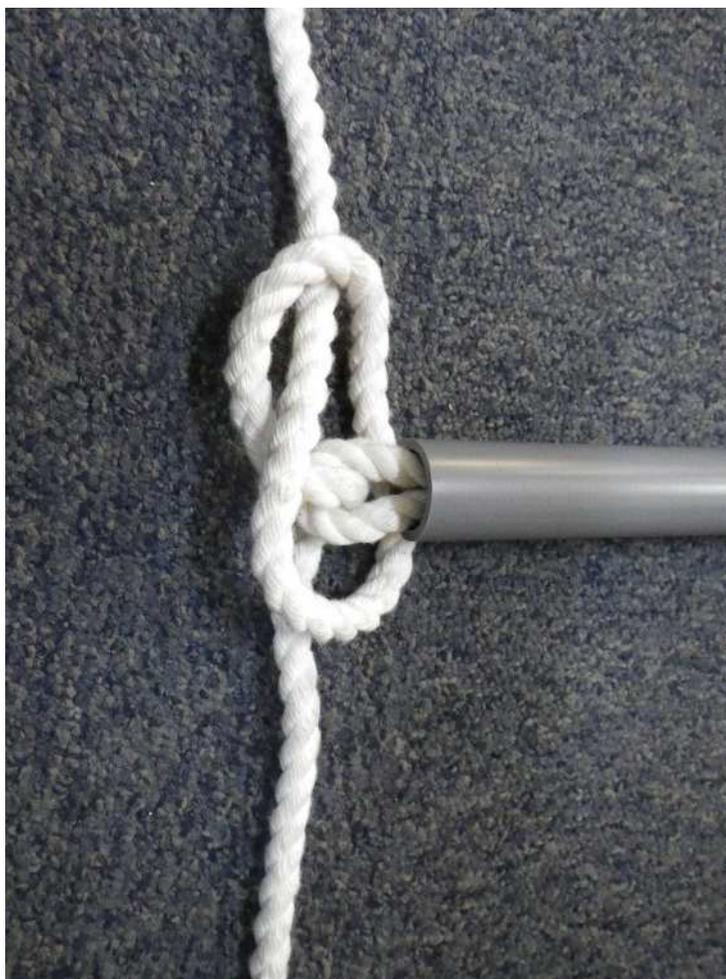


12 塩ビパイプを交わし
半結びをかける



「塩ビはしご」作成方法10

13 長さを調整し、結び
の位置を決める

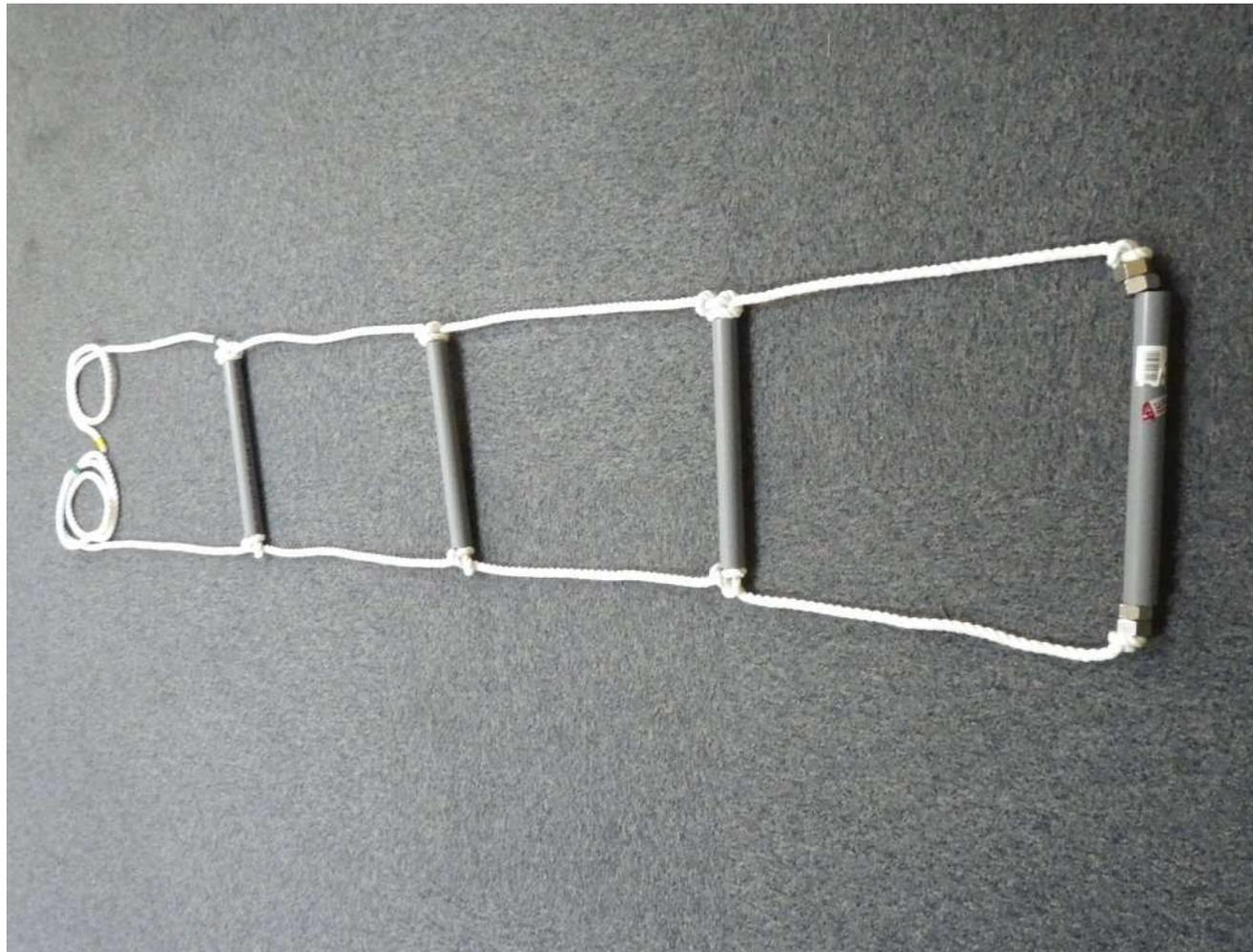


14 半結びを締めつける



「塩ビはしご」作成方法 11

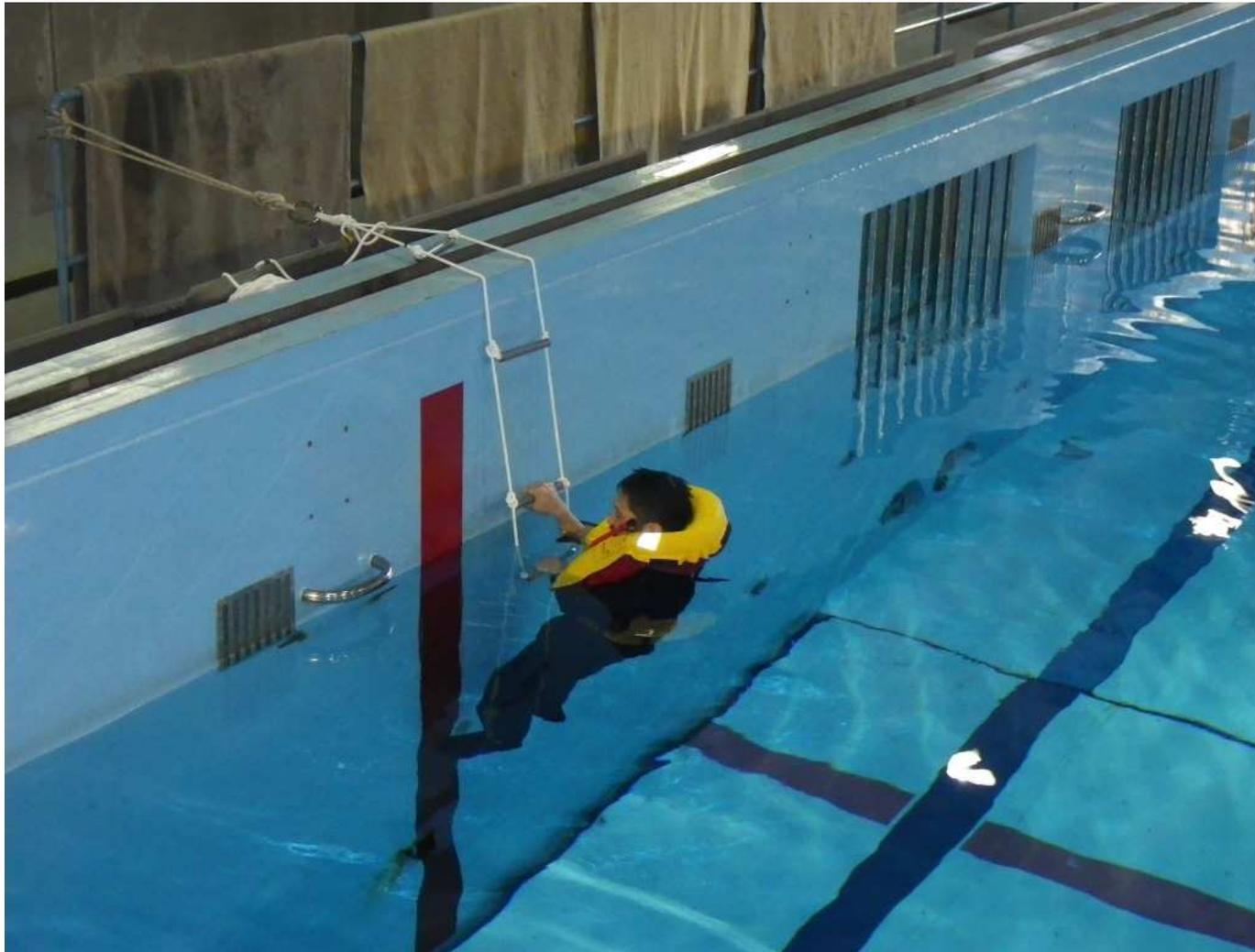
- 10 長さを調整し、全ての塩ビパイプの房に半結びをかけると、完成



「塩ビはしご」登はん法

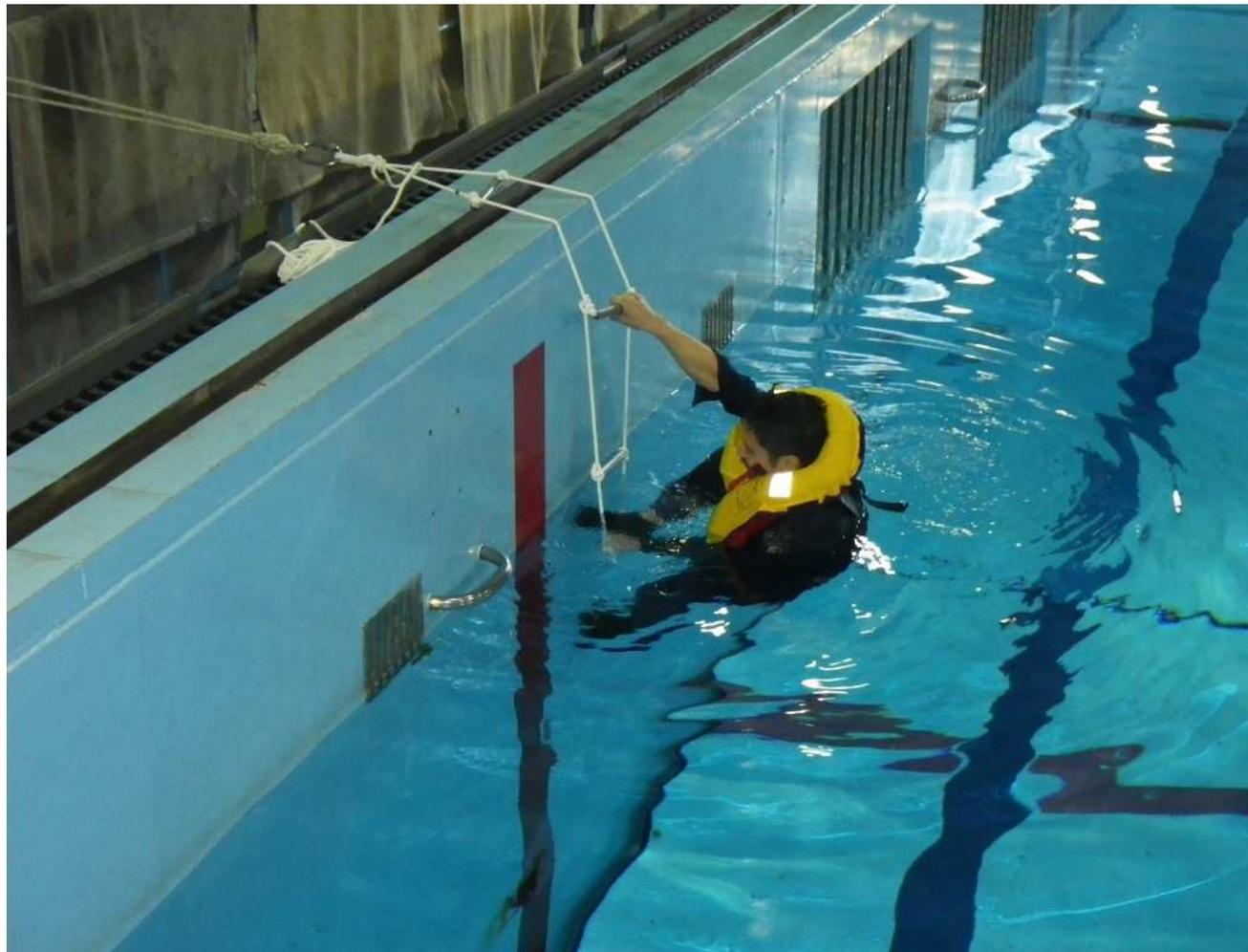
1段目を手で掴む

1段目が、海面下10～20cm程度が適当



「塩ビはしご」登はん法2

1段目を手で掴んだまま、足をかける



「塩ビはしご」登はん法3

1段目に両足を乗せ、立ち上がる



「塩ビはしご」登はん法4

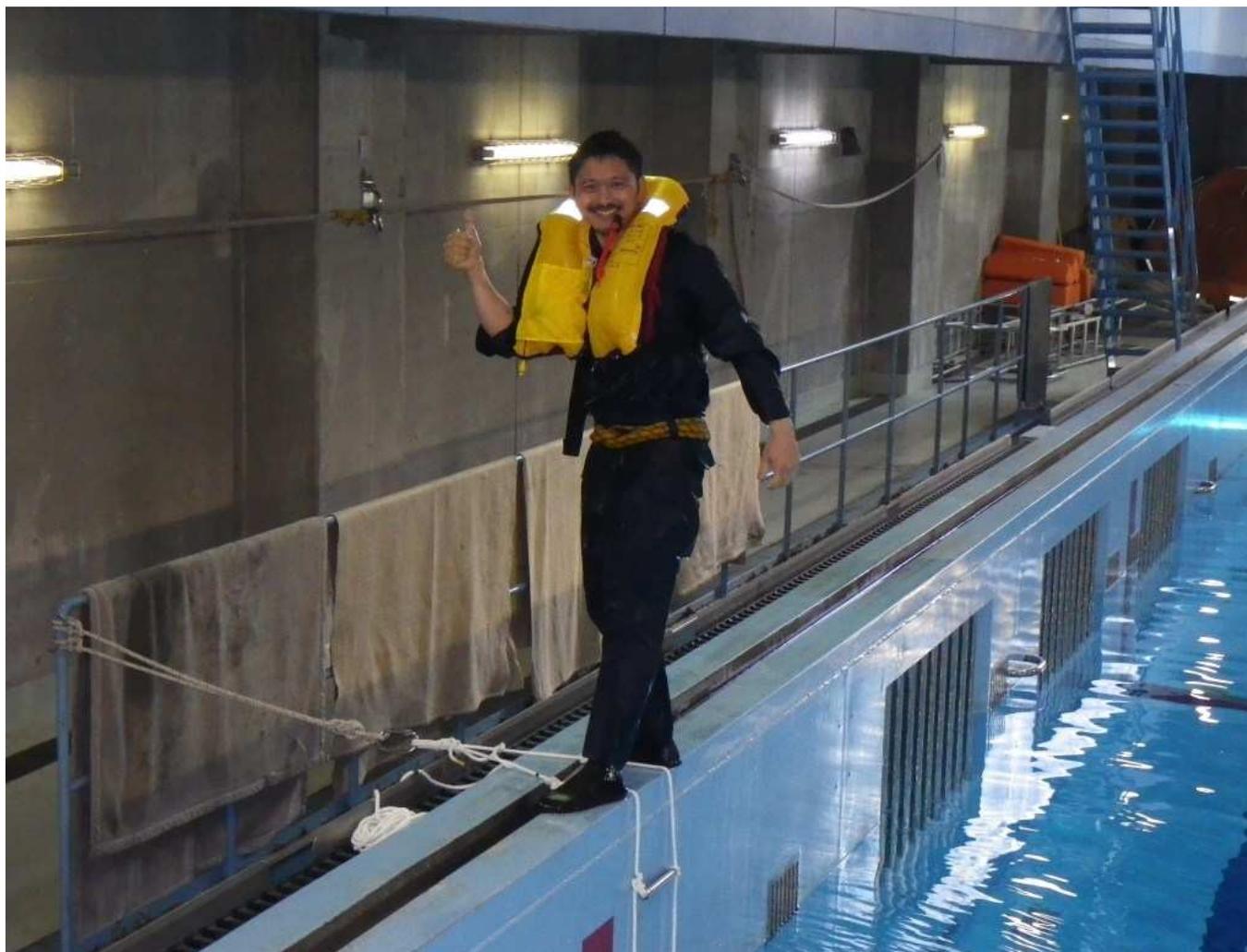
1段ずつ登る

足を移動するときは、必ず両手は、保持！



「塩ビはしご」登はん法5

無事、再乗船完了



まとめ

海中転落者の死亡事故を防ぐ方策

- LJは、しっかり体にフィットさせて着用
- 携帯電話を防水処置して、常時携行
- 単独行動をなるべく避ける
- 出港時の動静、行動予定を周囲に連絡

ご清聴ありがとうございました。



海のもしものは、**118**番

海上保安庁 横須賀海上保安部